大正時代にもあった！
感染症の大流行

1918年～1919年ごろ（大正時代）には「スペイン風邪」とよばれたインフルエンザが世界中で大流行しました。

スペイン風邪の感染者数

世　界

患者数：世界人口の25～30%

死者数：4,000万人～5,000万人

致死率 2.5%以上

※ 当時の世界人口は約20億人

日　本

患者数：2,300万人

死者数：38万人

最近では死者45万人という研究も…

※ 当時の日本人口は約5,700～5,800万人

国立保健医療科学院図書館所蔵　内務省衛生局著
『流行性感冒』（1922年3月）

大正時代の予防策

- 患者の隔離・接触者の行動制限
- 人の集まる場所ではマスクをする
- ひとりひとりの手洗い・うがい・消毒
- 学校や集会場など、人の集まる場所の閉鎖

日本での大流行は1920（大正9）年を過ぎて自然と終息していきました

実篤作品の中のスペイン風邪

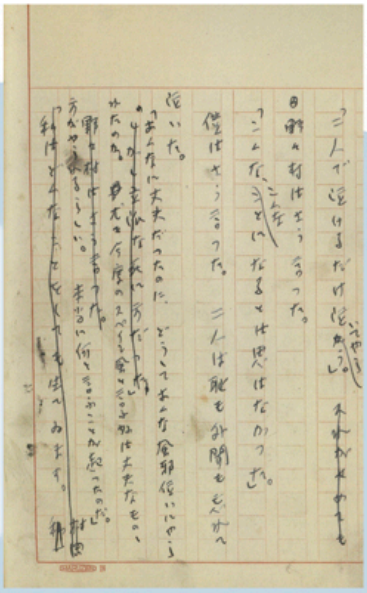
「愛と死」では、ヒロインの夏子が感染症で亡くなります。

原稿の部分

「あんなに丈夫だったのに、どうして
あんな風邪位いにやられたのか」
「尤も今度のスペイン風邪と言ふ奴は
丈夫なものの方がやられるらしい」

どの場面か、探してみよう

『愛と死』（新潮文庫）



「愛と死」原稿（部分）

※スペインインフルエンザ（1918-1919）の患者数・死者数は諸説あります。
参考：国立感染症研究所感染症情報センター「インフルエンザ・パンデミックに関するQ & A」（2006年12月改訂版）
世界規模のデータはWHO（世界保健機関）、国内データは内務省統計に基づいて作成しました。

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館